

第2回策定委員会の委員からの意見

資料 1

委員名	項目	内容	対応する意見等
木下副会長 (魚津市観光協 会会長)	将来的に必要な 観光消費額 の試算額 (128億円)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 128億円が目にと留まった。根拠もよく分かったが、実感として大きい金額であり、大変と思った。壮大な数字に感じた。 ・ 人口が減る状況であるので仕方がないが、国内の団体旅行もほぼゼロでありインバウンドもない。形を変えた観光需要を作る必要がある。 ・ グリーンツーリズムなどの地域の観光資源を活用した計画が必要。いかにお金と結びつけるのが重要。りんご、ブドウを買いに来てもらう、食べに来てもらうことが必要。(例として新潟の有名な酒店ではお酒は送らない。買いに来てほしいと言われる。) ・ 知恵を出して、どうやって128億円を稼ぐ必要があると感じている。 	<p>【外部有識者：山田様】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 計画案(128億という試算額)はまだ低く、少し優しめではないか。皆さんが慣れていないから100億円を超えていて驚いたと感じたのではないか。(計画づくりで数値で表すことを)これまでやってこなかっただけの事。この視点は必要。 ・ やる気のある若手には数字目標をはっきりさせることが重要。 ・ 観光産業は、農林水産などに大きく関わっている。現在の内容は観光のみに特化している。来訪者の消費額で500円を追加で使ってもらう事がそんなに難しいか。食後にコーヒー、スイーツを付けると800円+になる。
吉川さん (魚津市施設管 理公社 堀委員 の代理)	将来的に必要な 観光消費額 の試算額 (128億円)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画の数字128億円が最終目標であり、89億円が計画中の目標である。その差を市民が理解できるか。(全国の自治体の状況を確認・比較して出された指標が128億円。第3次計画における最終年度の現実的な目標は89億円。) 	<p>【事務局：商工観光課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 128億という具体的な数字を示すことで市民にも興味をもってほしい。あくまで試算額。 ・ 128億程度あれば、魚津市は将来的に観光都市として市民を含めてみんなが豊かになれるという想い。
松田委員 (日本旅行業協 会富山地区委員 会会長)	観光施策全般	<ul style="list-style-type: none"> ・ 石川県とタッグを組んで県として観光を盛り上げていくことになっている。 ・ 長野県ともっと交流をするべき。山の方からは魚、海の魅力が強いので連携が必要 ・ インバウンド需要はコロナ禍で全然ないが、今は準備が必要。オープンになったらすぐに行けるように受入体制を整える必要がある。 	<p>【外部有識者：山田様】(インバウンド関連)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 海外旅行に向けて動いていない国(オセアニア、東アジア)とワクチン検査パッケージを実施して動いている国(イタリア、ギリシャ、スイス等)がある。 ・ 中国は動けない。量より質の欧・豪は動ける。日中国交正常化50周年で台湾問題が出てくる。 ・ あと2年くらいはインバウンドオープンまでかかるのではないかと。

第2回策定委員会の委員からの意見

委員名	項目	内容	対応する意見等
村田さん (富山県観光振興室 山下委員の代理)	現状と観光施策全般	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人口減少と向き合う必要がある。魚津は昭和60年5万人弱、現在4万人2割減。 ・ 新幹線の影響について、新幹線駅が黒部に行ってしまった事は大きな問題ではなく、日帰りで帰っていかれる人（ビジネスマン等）が増えた事が問題。何か魅力がないと泊まってもらえない。 ・ 人口減の構成も重要。家族構成。世帯数は増えているが人口が2割減っている。1家族当たりの人口が減っている。核家族で遊びの構造も変わってしまっている。 ・ 立山黒部アルペンルート 石川県民は3割、富山県民は6割ほどしか行っていない。 ・ インバウンドについては 雪などの魅力があるまだ余力があると思う。 ・ 団体旅行は減ってきており、個人観光客が増えている。少人数、高付加価値を考える必要がある。 	なし
前澤委員 (魚津観光ボランティアじゃんとこい会長)	現状と観光施策全般	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最近コロナの状況であるが駅前に新しい店舗がどんどんできている。あるものをしっかりPRする必要がある。 ・ カコを食べることができる場所が欲しい。 ・ 足元をしっかり固める必要がある。 ・ 現在あるものでお金を落としてもらうコースが必要。 	なし
大愛委員 (魚津市商工会議所会頭)		<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナになり、変化していく時代になったと感じている。旅行に行っておいしい物を食べに行く事をしていたが、ネットで全国のおいしいものを食べられる。 ・ 対面販売ができず、ネット販売に投資する企業が増えた。 ・ コロナにより変化が加速した。 ・ 従来と同じやり方でいいのかどうか。新しい時代に、新しいやり方も必要であり、いままでやったことがないこともチャレンジし、際立った特徴を示すべき。 	<p>【外部有識者：山田様】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 観光はここでしかできない。Eコマースにはできないもの。例として、採れたて、もぎたての〇〇の提供など。そういったところで付加価値を上げるべき。

山田桂一郎さん (外部有識者)	組織体制	<p>【10/29委員会の中でのご発言の一部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コロナや経済状況を検証し戦略を立てており、計画は非常に重要である。 ・ 売り上げ目標、単価を上げる、数を増やす、因数分解をして施策と数字とセットで実施することは重要。 ・ 受け入れ体制が一番難しい。売り方を変えるとすると今のままでできるのか。魚津市観光課、観光協会、商工会でできるのか。体制はこれでいいのか？政府はDMOをお勧めしている。魚津市も検討が必要。シンプルにやる必要がある。お金の流れ、人事等。DMOでなければ観光庁からの補助金を受けられず、情報も得られない。 ・ 受け入れ体制をだれがやるのかでもめることがある。観光協会をつぶしてDMOを作った例もある。魚津市は人と予算を考慮し、観光協会、商工会と検討して体制の構築が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後の課題として、真摯に取り組んでいきたいと思います。
--------------------	------	---	---

第2回策定委員会の委員からの意見に対する主な対応（案）

委員名	項目	内容	今後の対応（案）
吉川さん (施設管理公社・堀委員代理出席)	数値目標 (経済波及効果)	<p>【事後メールにて意見提出あり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外部有識者（山田先生）の経済波及効果の積算まではできないにしても、その考え方に触れながら、「観光都市として将来的に必要な観光消費額」の試算額128億円を目指すという表現は使えないか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経済波及効果の視点は重要であると理解しておりますが、その積算には魚津市の産業連関表を作成し、専門的に分析した結果得られるものであり、今回の計画では積算・反映が困難です。 ・ 経済波及効果の考え方や必要性について計画内で触れられるかどうか検討します。
吉川さん (施設管理公社・堀委員代理出席)	計画の施策の位置づけ (水循環)	<p>【事後メールにて意見提出あり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 水循環を施策レベルではなくもっと上のレベルへ。できれば計画に中心に。 ・ 前沢委員が言っていた（会議内の発言）ように、現在あるもの（観光資源）をもっと活用する必要があります。現在の考え方は大体理解できるがどこにでもある観光計画になってしまわないか？ ・ 水循環は裾野がとて広く、農林水産物も温泉も水族館も埋没林もすべて水につながるもの。今そこにある資源である「水循環」を中心とした観光計画にできないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「水循環」は魚津ならではの特別な観光資源の1つであると考えています。 ・ 施策の1つに「水循環」の取り組みを記載しておりますが、今回の新たな計画で設定する「コンセプト」において、「水循環」が考え方の柱の1つとしてあることに触れたいと思います。